



■ テーマ名

日本人英語学習者の統語表象と言語産出メカニズムの解明

■ キーワード

心理言語学、統語的プライミング

■ 研究の概要

母語であれ、外国語であれ、効果的な言語コミュニケーションを行うためには、語彙情報の検索・アクセスと統語構造構築能力の自動化が要求されます。そのためには、脳内に豊かな語彙表象を構築する必要があります。

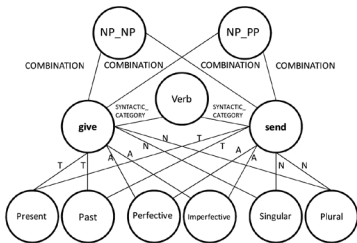
言語産出の基底にあるメカニズムや言語表象の性質を解明することを目的とした心理言語学研究では、統語的プライミング (syntactic priming) 効果がよく利用されます。統語的プライミングとは、言語産出プロセスにおいて、直前に処理した文と同じ統語構造パターンを用いる傾向を指します。

私たちは、Pickering and Branigan (1998) に基づき、JEFLLs (日本人英語学習者) を対象とした文完成課題を実施しました。その結果、L1の統語表象モデルがJEFLLsの場合にも概ね当てはまりましたが、下位群のプライミング率は上・中位群と比べて有意に低いことが分かりました。下位群の場合、メンタルレキシコン内に文産出のための語彙・統語表象が十分形成されていないことが、その理由として考えられます。

私たちは、JEFLLsを対象とした統語的プライミング実験を通して、言語産出において重要な役割を持つ語彙・統語情報とその処理プロセスを様々な角度から解明しています。

<利用分野・用途・効果>

- ・ 言語学習方法の開発



Pickering and Branigan (1998) の統語表象モデルによると、メンタルレキシコン (心的辞書) 内のレマ階層には、統語範疇 (syntactic category)、時制・相・数などの素性 (feature)、言語単位の結びつきを指定する情報 (combinatorial information) などの統語情報が貯蔵されています。統語構造は語彙表象の組み合わせによって構成されており、特定の統語構造が繰り返されることにより活性化すると考えられています。

■ 関連業績 (特許・文献)

<論文>

- ・ JACET J., 53, 75-91 (2011)
- ・ J. Japan Soc. Speech Sci., 13, 41-63 (2012)
- ・ ARELE, 24, 141-156, 189-204 (2013)
- ・ The Journal of Language and Literature, 33, 201-218 (2014)
- ・ Linguistic Research, Volume 32 (Special Edition), 1-13 (2015)